

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第5号(2005年8月1日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児心理学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第3回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第5回研修会のご報告
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第6回研修会のご案内
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報の送付方法について(重要)
- 6 編集後記～会報新企画へのご投稿を



ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 山崎 晃

暑中お見舞い申し上げます。会員の皆様方におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。

本年度の総会と研修会を5月14日に愛媛大学で開催いたしました。はじめて、瀬戸内海をわたり、滞り無く総会と研修会を終了いたしました。これも、愛媛大学渡辺先生・深田先生の多大なご協力によるものと感謝しております。

中国・四国支部も他支部と同様に広範囲な地区でございます。関東地区を始め、他支部では支部を分割するという方向も現実起きております。中国・四国支部につきましても、様々な条件を考慮した上でこの問題に対処してゆく必要があるかと考えております。現在の支部会員数は63名ですが、今後緩やかながら会員数の増加が見込まれます。支部活動をどのようにしてゆくか、支部としての独自の活動にどのように取り組むか、さらに、各地区での活動をどのように活発化してゆくかなど問題は山積しております。

また、会員数がそれほど多くないということからくる資金の制約もあります。このたび、情報の迅速な伝達とコストの削減を図るために会員の皆様へのインターネットをつかった情報の配信を提案いたしました。この件につきましてもどうぞ皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第3回総会のご報告

2005年度中国・四国支部総会を以下の通り行いましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 2005年5月14日(土)13:00～13:50

2. 場 所 愛媛大学教育学部音楽リズム室

3. 議 題

(1) 2004年度活動報告

1. 2004年度支部総会の開催 2004年度活動計画及び予算について審議・了承

2. 研修会等の開催 5月と7月に支部主催の研修会を島根、岡山にて開催

3. 会報の発行 研修会報告などを紹介

4. ホームページの運営 総会、支部主催研修会の内容、会員情報等を掲載

(2) 2004年度会計報告

2004年度決算

収 入		支 出		
支部会費(心理士会)	2,000×42	84,000	総会・研修会開催費	
日本臨床発達心理士資格認定委員会			会場費(2カ所)	3,504
繰越金		219,625	謝金(講師2名)	35,000
利子		6	旅費(講師2名)	7,400
			通信費	
			郵送費(43名)	7,020
			事務費	
			封筒他	848
			雑費	110
			繰越金	249,749
計		303,631	計	303,631

会計監査2名の監査報告とともに、下記の通り決算報告は承認されました。

(3) 2005年度活動計画案

1. 総会の開催

2. 研修会の開催

3. 会報の発行、ホームページへの活動等の情報を掲載

4. 事例報告会の開催

5. インターネットの利用・活用の促進

6. その他必要な活動

(4) 2005年度予算案

下記の通りの予算案が提出され、承認されました。

2005年度予算案

収 入		支 出		
支部会費(心理士会)	2,000×63	126,000	研修会開催費	116,610
日本臨床発達心理士資格認定委員会			研修会×3回(30,000×3)	90,000
繰越金		303,631	会場費×3回(5,000×3)	15,000
			案内発送費(90×43×3)	11,610
			事務費	1,000
			事例報告会等費	45,000
			予備費	10,000
			繰越金	257,021
計		429,631	計	429,631

以上、総会出席者12名、委任状25名、計37名(支部会員総数63名)で、過半数の承認により総会は成立致しました。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第5回研修会報告

2005年5月14日(土)、愛媛大学教育学部において、中国・四国支部第5回研修会が開催されました。講師として紅谷博美先生(元愛媛大学教育学部教授：臨床心理士)にご登壇頂き、「不登校再考」と題するご講演を賜りました。

長きに渡って不登校の児童生徒の相談を受けていらした豊かなご経験から、不登校の移り変わりや支援の広がり、また最近の不登校の傾向をふまえた解決のための考え方についてお話し頂きました。講演では、近年、気になる子どもたち、LD、ADHD、不登校の子どもが増加してきている等の現状の紹介があり、特に耐性未発達、社会性未発達の次元でとらえることによって実態が把握できることが示されました。さらにそのようにしてとらえた問題行動に対してどのような対応をすべきかについての具体的な解説がありました。まず第1に、問題の定義、問題を解決する主役はクライアントであること(脱医学モデル)、第2に、原因究明よりも問題解決を優先すること(脱因果関係探し)、第3に、クライアントの長所や強さに注目すること(リソースやキーパーソン探し)、等が必要であり、大切であることが述べられました。

また、学校の教職員を対象とするサポート体制を作ることの必要性、さらにそれを受け入れ育てるための「社会」の構築の必要性について、具体例を挙げた説明がなされました。講演後、講師と参加者が参加し、生理学的指標などの利用、社会体制・風

土の構築の必要性などについて、活発な討論がなされました。

ご自身の教育相談業務の中でかかわってこられた不登校の子どもたちとのエピソードや、校長の立場としてかかわられたエピソードなど、豊富な事例や資料をもとに、先生がおもちになる独特の存在感とお人柄が感じられる話し口に引き入れられ、充実した研修会となりました。参加者数は12名、臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。



4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第6回研修会のご案内

中国・四国支部の活動として次のような研修会が開催されます。何かとお忙しい時期ですが、たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。

1. 日時 8月28日(日) 14:00-17:00(15分の休憩を含む)

2. 場所 広島県立生涯学習センター 第2研修室

広島市東区光町二丁目1-14

TEL: 082-262-2411(代表)

<http://www.pref.hiroshima.jp/kyouiku/gakushu/center/>

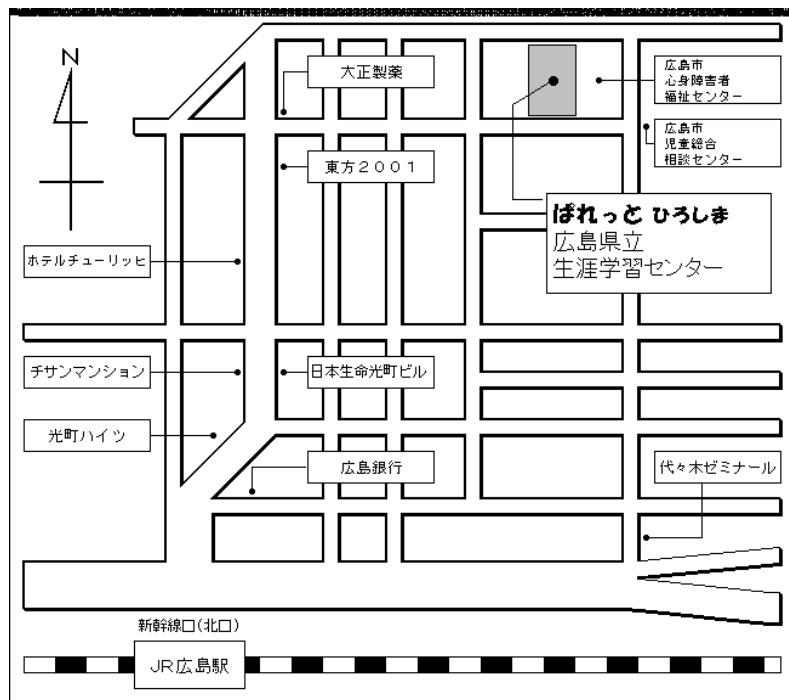
3. 講師 大澤多美子先生(広島市子ども療育センター 児童精神科医)

4. テーマ 「自閉症スペクトラム障害について ~高機能自閉症/アスペルガー障害を中心に~」

広汎性発達障害(自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群)、注意欠陥多動性障害、学習障害等を総称する発達障害を早期に発見し、社会参加を支援する発達障害者支援法が4月1日に施行されました。最近では、発達障害は早期に診断されることが多くなってきましたが、今なお十分になされていないとは言えません。大澤先生には、高機能自閉症/アスペルガー障害の子ども(小学生・中学生)の発見と診断についてお話頂く予定です。

当日は、1時間ご講演を伺った後、参加の皆様からの質問をうけて頂き、さらにお話を頂く予定です。更新ポイントは1ポイント(3時間)です。

5. 広島県立生涯学習センターへのアクセス



JR 広島駅新幹線口(北口)から約700メートル

JR 広島駅南口から約900メートル(駅構内地下自由通路を経由)

紙屋町からバス(広島バス)約20分

・県庁前~戸坂東浄団地行(若草町下車約600メートル)

・バスセンター~寺分行(若草町下車約600メートル)

・バスセンター~上温品行(若草町下車約600メートル)

・バスセンター~上深川行(若草町下車約600メートル)

・バスセンター~小河原車庫行(若草町下車約600メートル)

5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報の送付方法について

中国・四国支部では会員向けの各種情報を郵送からインターネットによる配信に切り替える方向で検討をしております。具体的には電子メールによる情報発信の充実です。これにはいくつかのメリットがあります。その一つは迅速な情報伝達です。現在、会報を半年毎にお送りしておりますが、会報をお届けする時期との関係で、各地で開催される臨床発達心理士関係の催し等、掲載が出来ないものが少なからずあります。また、電子媒体を用いた場合、ほとんどコストをかけずに、またリアルタイムに情報をお届けすることができます。カラーの図や動画をお届けすることも出来ます。以上のような理由で、会報や総会案内、研修会案内、募集などの情報を、郵送で送付する方法から電子メールによる配信へ変更することを検討しています。なお、希望により、これまで通りの郵送による送付も可能です。

本年度の総会で、インターネットによる情報の送付（配信）については、基本的方向としては了承されておりますが、インターネット利用による情報送付について、すべての支部会員の方、お一人ずつの諾否を伺いたく存じます。

つきましては、同封致しました葉書にて可否の御返事をいただきたいと存じます。今回インターネットによる配信をお申し込み頂いた方には、基本的には今後電子メールのみで情報を配信し、郵送は行いませんのでご了承下さい。また、配信先の電子メールアドレスも必ずご記入頂きますようお願い申し上げます。インターネットを随時利用できる環境にないなどの理由で、引き続き郵送による送付を希望される方は、「郵送を希望する」の欄にチェックして下さい。

この件につきまして、ご意見、ご質問をお持ちの先生は幹事（山崎晃 r562208@hiroshima-u.ac.jp）までお寄せ頂きますようお願い申し上げます。



6 編集後記～会報新企画へのご投稿を～

中国・四国支部会報では、支部の会務報告や研修会報告・ご案内の他、会員相互の情報交換等にも役立てて、バラエティのあるフレッシュな紙面作りをしたいと願っています。

そこで、会員の皆様から次のようなご投稿を広く募ります。気軽に奮ってお寄せ下さい。

（宛先：yashima@sanyo.ac.jp）

1 中四会員紹介

この企画ではそれぞれの実践現場の様子を紹介して頂き、会員相互の交流や理解を図れたらと思います。それぞれの現場の様子等、本紙半頁程度で募ります。

2 耳より中四情報

会員の方に知らせてあげるとよさそうな臨床発達士心理関連の研修会、図書情報等を200字程度でお知らせ下さい。

（編集委員会）